

FOCUS

追いかける。大学生。

森林ボランティアサークル 森なかま

演習林を有効活用

京都府立大の演習林を、自身の手で維持・管理をしている団体がある。森林ボランティアサークル「森なかま」だ。定期的に演習林に通うだけでなく、そこで伐採した木材を様々なことに活用している。

森林科学科は演習林を用いた野外実習を行っている。授業以外に訪れる機会が少なかった演習林を「せっかくなから有効活用しよう」と、森なかまは2003年に発足した。

森なかまは67名の部員を持つ大所帯で、森林科学科の学生の約8割が所属している。月に1、2回演習林に通い、昨年は1年間に100本ほどの木を切ったという。

森なかまの活動は、木を切るだけにとどまらない。切ったあとの木材は、大学内にある木材加工室で、部員自らが加工する。森なかまが製作したベンチは、キャンパス内各所に設置されている。代表の内海貴州さん（京都府大・2年）は「空きコマにここでくつろいでいる人は多いですし、新歓期にはこのベンチを使って鍋パーティーが行われます」。

また、間伐材の加工品は、京都府内や大阪府内のイベントで販売するよう主催者から依頼されることもある。それ

学生が広げる「森」の可能性

以外にも、「友人から依頼されて、本棚などを作って渡すこともあるんですよ」。

加工中に出た木くずも有効に利用している。京都府立大の省エネ事業の一環として、ペレットストーブの燃料として活用している。「活動をより多くの学生に知ってもらいたい」という目的で、ストーブは1年生が主に使う校舎の入り口に設置されている。

内海さんは森林科学科の学生の一人で、演習林で授業を受けることもある。「普段の

授業だけでは体験できない現場での作業がたくさんでき、生の声を聞けますし、森林に関わる他大学との交流もできます」と、森なかまの魅力をあげた。

去年から、演習林だけでなく、民間の山主の山仕事の手伝いも始めた。メンバーの河合貴則さん（京都府大・3年）は「今後とも演習林と並行して、それらの活動も精力的にしていきたい」と笑顔で語った。

（聞き手＝鈴木太郎）



UNN関西学生報道連盟

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com

FOCUSは

神戸大学ニュースネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムズ編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです